

# 食料の安全・安心を守る共同宣言に関する行動計画

宮城県協同組合こんわ会

## 共通取り組み事項

- ① 「おにぎりフォーラム」と「食育」をテーマにした学習会等を開催する。
- ② 「山」「里」「海」の協同組合の仲間がつくった「気持ち伝えるみやぎのおにぎりセット」を販売する。
- ③ 宮城県環境保全米県民会議やみやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）と連携した環境保全活動を実施する。
- ④ 構成団体が開催する各種催事等の支援・協力をする。

	1. 食の正しい価値形成に努め、食育の推進やバランスの取れた食生活の普及啓発に取り組む。	2. 安全で安心な食料生産と地域の農林水産業を守り育てる運動を展開する。	3. 県産県消運動と多様な循環型地域づくりを目指す。
<p>宮城県農業協同組合中央会</p> <p>仙台市青葉区1-2-16 Tel 022-264-8245</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① JAグループ宮城「食農教育」の推進に関する方針を実践する。 ア. 農業・農村体験の「場」づくり イ. 学校における「総合的な学習の時間」へ支援協力 ウ. 「食」と「農」をキーワードにした「都市と農村」及び「農業者と生活者」の交流活動促進 エ. バケツ稲と学校田による稲作指導を実施 オ. 小学生高学年向け農業用副読本を作成</li> <li>② 県民を対象に「食と農を考える公開シンポジウム」等を開催する。</li> <li>③ 「食と農」に関するマスメディア（ラジオ、テレビ、新聞）を活用して情報発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 農林水産省ガイドラインに基づく特別栽培の「環境保全米づくり全県運動」を実践し、平成22年までに県内作付面積の70%に取り組む。</li> <li>② 米穀・青果物の生産履歴記帳に加え、宮城県版GAP（農業生産工程管理）を導入する。</li> <li>③ 集落営農による担い手づくり推進と土づくり運動を普及定着させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① JAグループ宮城「地産地消」推進協議会（仮称）の設立と地域食材を使った食品を提案する。</li> <li>② 米穀・青果物については、「みやぎ食の安全安心宣言」に基づき生産を行うとともに、登録店舗に提案を行う。</li> <li>③ 地場食材を提供するJAファーマーズマーケット、インショップ型直売所を拡大する。</li> <li>④ 宮城県米飯学校給食推進委員会と連携した県内産米の継続供給と新たな地場食材供給を行う。</li> </ol>
<p>宮城県生活協同組合連合会</p> <p>仙台市青葉区柏木1-2-45 7F Tel 022-276-5162</p>	<p>加盟会員生協と連携して、下記の活動を行なう。 （みやぎ生協）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域での食の安全安心の講師を務める「食のかたりべ」を育成する。</li> <li>② みやぎ生協の食生活改善提案を普及する活動を実施する。</li> <li>③ 日本生協連の小学生向け通信教育型食育ツール「たべるといせつキッズクラブ」の普及をすすめる。</li> <li>④ 親子で食育を学べるツールを地域に提案する。</li> <li>⑤ 小学生対象の「5ADAY 食育体験ツアー」の活動を継続して取り組む。</li> <li>⑥ 産地見学や生産者を招いての産直の学習会等、交流・学習を実施する。</li> <li>⑦ 環境問題の切り口から南三陸町の町有林に植林する。農業、林業、水産業の現状を学習する。 （あいコープみやぎ）</li> <li>⑧ 「食育コンダクター養成講座」を開催し、健全な食生活の維持をサポートする人材の育成を目指す。</li> <li>⑨ 生産者と子どもとの交流体験「キッズスクール」を開催する。</li> <li>⑩ 食をめぐる様々な問題について専門家に学ぶ講座を開催する。 （東北大生協）</li> <li>⑪ 大学生の健康推進のための「ミールプラン事業」を引き続き行なう。 （宮城大生協）</li> <li>⑫ 大学の実習農場にて学生自らが、米・野菜の栽培に取組み、自給自足の体験を行なう。</li> </ol>	<p>加盟会員生協と連携して、下記の活動を行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「環境保全米づくり全県運動」に消費者団体として参加し、協力をしながら進める。</li> <li>② 宮城県生活協同組合連合会、仙台市消費者協会、主婦連合会仙台支部、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生活協同組合、生活協同組合あいコープみやぎ、（財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）で構成している、「食品の安全行政をすすめる懇談会」は、安心して食生活をおくれる環境を求めて、ともに連帯し様々な活動を行っている。今年度は「遺伝子組換え作物の交雑と混入防止のための条例」を制定する活動を行なう。 （みやぎ生協）</li> <li>③ 宮城県の減農薬減化学肥料による特別栽培農産物の認証をとった産直農産物を、「産直グリーンセレクト」の名称で提携産地とともに取組み、引き続き供給・推奨していく。</li> <li>④ 産直野菜の生産管理手法のもう一段のレベルアップを図るために、「安心くん＝青果物品質保証システム」（生協版GAP）を07年度に実験導入を行なったことを踏まえて、産直野菜全生産者400人で取組みを開始する。</li> <li>⑤ ホームページやQRコードで生産履歴や情報をたどることが可能な商品を、08年度は加工食品の原材料の情報のお知らせを行ないます。これにより、扱い商品の情報公開率を大幅に向上させる。 （あいコープみやぎ）</li> <li>⑥ 飼料米についての学習と生産者を増やす取組を行なう。</li> </ol>	<p>加盟会員生協と連携して、下記の活動を行なう。 （みやぎ生協）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「顔とくらしの見える産直品」をはじめ、県産品の供給高を伸ばしていく。</li> <li>② 産直品や宮城県産の主な原料を使った商品を、店舗で毎週おすすめ活動を行う。また、店舗で宮城県の提案の「食材王国みやぎ 地産地消の日」に、毎月産直品をはじめ地場商品の普及拡大に取り組む。</li> <li>③ 大豆や小麦の例で実践してきたように、「宮城県産の農産物を主原料とした加工食品の開発」に力を注いで、国産原料を主原料に国内工場生産する加工食品の供給（販売）構成比率を、現在の20%程度から50%以上に増加させる取組みを進める。</li> <li>④ 毎月19日の食育の日に地場品をすすめる売り場を展開する。</li> </ol>
<p>宮城県漁業協同組合</p> <p>石巻市開成1-27 Tel 0225-21-5711</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 高たんぱく・高栄養を有する魚食の普及推進にむけて取組む。</li> <li>② 漁業・漁村の健全な育成を通じた日本型食文化の維持・形成への取組み。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 清浄海域での魚介藻類の生産促進と漁場環境保全活動の推進にむけて取組む。</li> <li>② 漁業協同組合による共販体制の維持と衛生管理体制の強化にむけて取組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地場魚介藻類の消費普及活動にむけて取組む。</li> <li>② 自然循環の浄化機能等を有する漁業の多面的機能の健全な発揮にむけて取組む。</li> </ol>
<p>宮城県森林組合連合会</p> <p>仙台市青葉区上杉2-4-46 Tel 022-225-5991</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 野生きのこ等について、人工栽培技術の確立による安定供給と普及推進に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 県土の約6割を占める森林について、間伐等の保育を推進して森林の健全性を維持し、水資源のかん養等の公益的機能の維持増進に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本県のスギを主体とする森林資源は成熟しつつあり、良質な県産材の供給による「みやぎ版住宅づくり」等を推進する。</li> <li>② 伐採跡地へ再生産をすすめ、森林の最大の長所である再生産、循環可能な資源基盤を確立する。</li> </ol>
<p>日専連宮城県連合会</p> <p>仙台市青葉区本町2-16-12 Tel 022-266-3541</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日専連の加盟店では、「伊達な逸品」として食品をはじめ、宮城県産品を推奨する運動に取り組む。</li> <li>② 地域の生産品の販売を通して、市民と生産者の顔の見える流通面から循環型地域づくり、経済の仕組みづくりに取り組む。</li> <li>③ 業種により宮城県産品を取り扱わない店、取り扱いにくい店においては、“宮城、地元の専門店が自信を持ってお勧めする商品”を『伊達な逸品』として推奨する。</li> <li>④ 消費者の身近にいる専門店として、「信頼できる店」、「安心な店」として、より専門性を高める運動に取り組む。</li> </ol>		

